

【授業の手法、目的】

- (1) ツールとしての英語ではなく、探究の素材としての英語を生徒に提供する。文法、語彙、語法、語用、発音等あらゆる事項に関して言語としての英語の課題を生徒に発見させる。
- (2) 英文の理解を確認させるため、必要な場合（部分）は訳読を行う。その際、日英比較の視点から両言語の相違点を見出させ、探究のきっかけを与える。
- (3) テキストの内容・背景知識に関して、教員が先に予備知識を与えるのではなく、生徒が自ら課題を発見し、さらに学び続ける態度を育成するため、生徒自身に疑問を出させる。

これらの目的達成のための特別な授業が特別な技術を持った教員によって行われるのではなく、通常の授業の枠組みの中で、継続的、常態的に行われることが目標である。それをもって、「課題発見型」「問題発見型」授業の普及につなげる。

【授業の展開】（レッスンの1セクションを1時間で行う場合）

- (1) 1セクションに関して、通常に行われている **Word Hunt**、**TRUE or FALSE**、**Questions & Answers**、等の内容理解を行う。 (約15分)
- (2) 「課題（問題）発見型」活動
 - ① テキストから2文程度の文を選んで、意味をゆっくりと考えさせる。必要ならば日本語訳を付けさせる。
 - ② ペアまたはグループで話し合いながら、「その文を理解するうえで、疑問となる点、気になる点、文法的に疑問な点等」を挙げさせる。
 - ③ ペアまたはグループで解決できなかった疑問点等をジャムボード等の付箋に記入させ、挙げさせる。
 - ④ 教員は挙げられた疑問点の中から、「特に注目すべきもの」「説明のスライドに用意されていないもの」「すぐには答えが出そうにないもの」を板書し、生徒と共有する。
 - ⑤ あらかじめ準備しておいた説明のスライドを使用し、説明を行う。
 - ⑥ あらかじめ準備されていない疑問点に関して、すぐに説明するのが適切なものは説明を行う。疑問点としてそのままにしておくものがあるのもよい。生徒に疑問点としてとっておかせる。(約20分)
- (3) 通常に行われている音声活動、**Questions & Answers**（上記のものとは異なり **Personalize** されたもの）、簡単なリテリング等を行う。 (約15分)

【授業後アンケートから読み取れるもの】

課題研究のテーマ設定には直接的には役にたたないが、生徒は「自ら課題を発見する力」「問いを立てる力」「深く考え探究する力」を身に付けてくれたと読み取れる。